

お札の移り変わり

7月3日から千円札、五千円札、一万円札のデザインが新しくなります。ここではこれまでのお札の歴史や、新しいデザインにする理由などを載せていきます！

1950年から2024年までのお札には誰が描かれていたかを表にすると、下のようになります。皆さんは夏目漱石(なつめ そうせき)の描かれた千円札や、新渡戸稲造(にと べいなぞう)の描かれた五千円札を見たことはあるでしょうか？ ちなみに筆者は昔、新渡戸稲造の五千円札をレジで出したときに、店員さんから、「よくこんな懐かしいものもってるねえ」と言われた経験があります笑

1958年から1963年にかけては、どのお札にも聖徳太子が描かれていたのですね！
聖徳太子は昭和30年に発行された百円札にも描かれていたそうです！

	千円札	五千円札	一万円札
1950年	聖徳太子		
1957年		聖徳太子	
1958年			聖徳太子
1963年	伊藤博文		
1984年	夏目漱石	新渡戸稲造	福沢諭吉
2004年	野口英世	樋口一葉	
2024年	北里柴三郎	津田梅子	渋沢栄一

●大体何年ごとに新しいお札にするのか？

→ 大体20年くらいでお札を新しくするそうです。

●そもそもなぜお札を新しくするのか？

→ お札を偽造させないため。長い間、お札をそのままにしておくと、お札を研究されてしまい、ニセ札を作られやすくなってしまいますから。

(偽造防止のための工夫があちこちに施されています。ここでは説明しきれないため、詳しくは国立印刷局の「新しい日本銀行券特設サイト」を御覧ください。)
(右の画像も新しい日本銀行券特設サイトより抜粋)

デザインの面でも、目の不自由でもお札の判断がつくような工夫や、海外の人にも馴染みのあるアラビア数字の大きさを大きくするといったユニバーサルデザインが取り入れられています。



〇〇クイズの答え

第1問・・・[1] 1885~1886年にかけて発行されました 第2問・・・[3] 日本銀行券

第3問・・・[4] 平均四~五年。使うことの多い五千円や千円は平均一~二年くらいだそうです。